

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 高等学校公民科における「問い」と「振り返り」の工夫を通して —

指導主事 築 義彦 研究協力員 熊本県立翔陽高等学校 教諭 佐々木 絵里奈

1 はじめに

本実践と研究テーマとのつながりについて、「本実践がどのように生徒の豊かな人生や持続可能な社会につながっているのか」という観点から述べる。

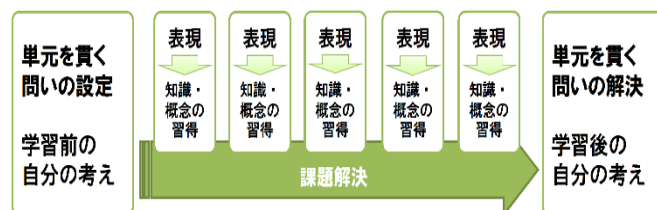
本実践では高等学校学習指導要領（平成30年3月）（以下、「次期学習指導要領」）における科目「倫理」の目標を踏まえ、「日本の仏教思想」の単元において「日本（人）らしさとは何か」という問いを設定して課題解決的な学習を行うものとする。その際に、文化や宗教、自然観などの多様な視点から課題を捉えさせ、学習過程で得られた知識や概念を活用して考えさせる。このことは、生徒が国際社会に生きる日本人としての自覚を深めることに資すると考える。また、このような学びは、生徒がこれから生きていく上での人生観、倫理観、世界観を育成することや、自己の課題を知り解決しようとする態度を育てることにもつながると考える。さらに、振り返りの工夫により、自己の考えの深まりや自己の表現力の高まりを実感させる。このことは、学習課題についての理解を深めさせるだけでなく、生徒の自己肯定感を高め、社会に参画する力を育成することにもつながると考える。

2 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年7月文部科学省）によれば、公民科における「社会的な見方・考え方」は、各科目の特質に応じて整理されており「倫理」については「人間としての在り方生き方についての見方・考え方」として「社会的事象等を倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること」と示されている。

生徒たちが課題を解決する過程で、この「人間としての在り方生き方についての見方・考え方」を働かせるようにするためには「単元を貫く問い」を設定し、その問いを解決するための多様な視点を1単位時間ごとに獲得していくような単元構成の工夫が必要であると考えた。また「単元を貫く問い」そのものが、生徒たちが人間としての在り方生き方についての自覚を深めることにつながるものであることも必要であると考えた。



(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

本実践では、視点1で述べたように「単元を貫く問い」を設定し、その解決に向けての多様な視点を1単位時間ごとに生徒たちが獲得していくように単元を構成した。そこで、1単位時間ごとに「自分はどうような知識や概念を獲得したのか」を生徒たちが振り返ることができ、さらに単元の終末には「課題についての知識や概念を得る前と後では、自分の考えが、どのように変容したのか」を生徒自身が見取ることができるように、ワークシートを工夫した（1枚ポートフォリオ）。

3 研究の実践

検証授業 高等学校 第3学年
単元名 日本の仏教思想

(1) 本単元の授業設計

本単元は、日本的な美意識や自然との関わりについての考え方などを取り上げ、日本人の心情やものの見方・考え方と風土との深い関わりを理解させるとともに、これらが仏教を受容することによってどのように変化したか、また何が変化しなかったかについて考察させるものである。

本単元を通じて「日本（人）らしさとは何か」という問いを探究させることは、生徒たち自身が「日本のよさ」や「日本の課題」に気づき、これからの

日本人はどうあるべきかを考えることにもつながるものである。

また、この探究的な活動を、対話的な手法により展開することは、本実践で育成を目指す資質・能力として設定した「自分の生き方について考え、それらを伝える力」を育むことや、学校教育目標である「将来、世界中で活躍できるグローバルな視点と能力を持つ、故郷熊本を支える地域人材の育成」の実現にもつながるものである。

(2) 単元目標

古来の日本人の心情や日本の先哲の考え方を手掛かりに、自分の生き方について考え、それを表現することができる。

(3) 単元計画



第 1 時 「日本(人)らしさとは何か」について、日本文化の特質を通して考える。

第 2～6 時 「日本(人)らしさとは何か」について、日本人の自然観や仏教思想の受容を通して考える。

- ・日本の風土と自然観、倫理観
- ・仏教の受容と奈良仏教の展開
- ・平安仏教(最澄と空海)
- ・鎌倉仏教①(法然と親鸞)
- ・鎌倉仏教②(栄西と道元、日蓮)

第 7 時 「日本(人)らしさとは何か」について、1枚ポートフォリオの記録を基に自分の考えをまとめて発表する。単元で学んだことを、これからどう生かすか考える。

(4) 研究の視点

〔視点1〕

自分の在り方や生き方についての自覚を深めることへ向かうような「単元を貫く問い」を設定する。また、問いを解決する過程において、文化、宗教、自然観などの多様な視点から課題を捉えさせ、考えさせる。

〔視点2〕

1 単位時間ごとに習得した知識や概念を、自分の言葉で表現し、その記録を基に「単元を貫く問い」を解決する活動を通じて、自己の考えの変容と、表現力の高まりを実感させる。

(5) 授業の実際

本研究では、単元の目標を達成するために、単元を貫く問いとして「日本(人)らしさとは何か」を設定した。生徒たちの主体的な学びを引き出すためには、この単元を貫く問いを、自分事として捉えさせることが重要であると考えた。そこで、単元の導入部分にあたる第1時の授業の実際について述べる。

① 導入

導入では「日本(人)らしさとは何か」という単元を貫く問いについて考える前に、生徒が自分事として捉えやすい問いとして、「翔陽(生)らしさとは何か」について考えさせた。この問いを通して、「～らしさ」について考えることが、「自分が誇りとしているものに気付くこと」や「アイデンティティの確立」に有用である一方で、「自己の課題の発見」にもつながることに気付かせることをねらいとした。

② 展開

展開では、本時の学習課題である「日本の文化に関する資料を通して、『日本(人)らしさ』について考えよう」に取り組む手だてとして、次のA～Cの各資料のうちの1つを基に、グループ(2人～3人)でその資料から読み取れる「日本(人)らしさ」について考えさせた。



- ・資料A「日本庭園」と「欧風庭園」(写真)
- ・資料B「陶芸茶碗」と「ティーカップ」(実物)

- ・資料C『平家物語(冒頭部分)』、『方丈記(冒頭部分)』、『traveling(歌詞、宇多田ヒカル)』

(日本庭園の写真資料から、生徒たちが日本では「四季」を大切にすることについて、気付く場面)

生徒A:(庭園を写した写真の季節は)夏場以外じゃないかな。これは春でしょ。これは秋。

生徒B:これは冬かな。

生徒A:(この写真には)桜が見えるよ。

生徒B:春夏秋冬。

生徒A:それじゃあ、これは夏。四季だね。

その後、各グループの考えを書いた付箋を意見集約用のワークシートに貼りながら、クラス全体（7人）で意見を交流させた。内容が近い付箋どうしは近くに貼り、グループングさせていくことで、各資料から読み取れることの共通点を見いだすことを促した。



また、クラス全体で意見を交流して気付いたことについて、2人を指名して発表させた。

生徒C：（資料に見られる）日本らしいところは、庭園では、人工物が少なく、自然が多いところ。食器は、暗い色が多くて、素材そのままのようなものが多い。文章は遠まわしな表現が多いところだと思います。

③ 整理（終末）

終末では、全体での意見交流や、発表者によるまとめを参考にしながら、日本文化に見られる「日本（人）らしさ」について、個人の考えをまとめさせ、1枚ポートフォリオの振り返りの欄に記入させた。

日本文化に見られる、「日本（人）らしさ」とは？	
生徒D	造園にしても茶碗にしても、日本のものは素材そのものを生かそうとしている。
生徒E	自然と人を共通させながら表現していたり、和を感じさせるような造りがなされていたりしていると思った。

意見交流の場面では、それぞれの資料に見られる「日本（人）らしさ」の共通点を見い出すところまで十分に議論を練り上げることができなかった。しかし、授業の終末に個人思考の時間を多くとったことで、生徒Dや生徒Eのように、その点まで思考を深めることができた生徒も見られた。また、すべての生徒が、個別の資料から「日本（人）らしさ」について読み取り、自分の言葉で表現することができていた。

1枚ポートフォリオには、この後も1単位時間ごとに、その時間の学習内容を通して「日本（人）らしさ」について考えたことを記入させていく。単元の終末では、この1枚ポートフォリオの記録を基に、「単元を貫く問い」についての、自分の考えをまとめることになる。

(6) 検証結果と考察

表1は、実践（単元）の前後に実施した質問紙調査の結果である。また、表2は、検証単元の導入時（第1時の前）及び終末時（第7時）に単元を貫く問いである『日本（人）らしさ』とは何か？』について、生徒たちが1枚ポートフォリオに記述したもののから抜粋したものである。さらに、表3は、単元の振り返りとして「この単元で学んだことを、これからどう生かしていくか」について、生徒たちが自由記述したもののから抜粋したものである。

本実践の検証結果とその考察を、研究の視点である「問いの工夫」と、「振り返りの工夫」の観点から述べる。

表1 「学習に関するアンケート」結果より抜粋（n=6）4件法

質問	事前	事後
あなたは、倫理の授業の中で、課題に対して、粘り強く学習に取り組んでいる。	2.50	2.83
あなたは、倫理の授業で学んだことが、自分の将来につながると考えている。	2.67	3.33
あなたの周りで、自分の在り方生き方について考え、表現しようとする力が高まっている。	2.67	3.50

表2 「単元を貫く問い」についての記述

単元を貫く問い：「日本（人）らしさとは何か？」		
生徒F	導入時	・優しい ・漢字、ひらがな ・寿司 ・2020オリンピック ・漫画がある ・いろんな方言がある ・天ぷら
	単元末	（日本では）一つ一つの事や人を大切にしているし、たくさんの事が現代まで受けつがれている。そして、神様が多くいることにより、一つ一つを大切にアツカウこと。
生徒G	導入時	・和 ・天ぷら ・平和 ・寿司
	単元末	私の思う日本人らしさは、庭園や茶わんなどで表す自然の美しさや、人間同士の和を大切にすることの美しさだと思いました。また、日本人は、善人も悪人も平等に救うことができるところは、とても日本人らしく、すばらしいことだと思いました。

表3 検証単元後の自由記述による振り返り

この単元で学んだことを、これからどう生かしていきますか？	
生徒F	（日本人は）「一つ一つの事や人を大切にすること」を学んだ。これから社会人になっていく中で、たくさんの人や事に出会おうと思います。なので、これからは今まで以上にたくさんの人や事を大切にしていきたいと思いました。
生徒G	私は、この単元で、日本人らしさは、心の美しさだと思いました。他の人が発表したなかにあった、人を大切にすることや愛することは、心の美しい日本人だからこそできると思うので、これからは、今まで日本人が大切にしてきたたくさんのものを、私も同じように大切にしていきたいと思いました。

① 研究の視点1について

表1の「あなたは、倫理の授業の中で、課題に対して、粘り強く学習に取り組んでいる」の項目に向上が見られた。これは、「単元を貫く問い」を設定し、1単位時間ごとに習得した知識・概念を活用する課題解決的な学習に取り組んだ成果であると考えられる。また「あなたは、倫理の授業で学んだことが、自分の将来につながると考えている」の項目でも大きな向上が見られた。このことは、本実践が、生徒たちがこれから生きていく上での人生観や世界観の育成に資するものであったことを示している。このことは、表3に「この単元で、日本人らしさは、心の美しさだと思いました。」「今まで日本人が大切にしてきたたくさんものを、私も同じように大切にしていきたいと思いました。」等の記述があることからもうかがえる。

② 研究の視点2について

表1の「あなたの周りで、自分の在り方生き方について考え、表現しようとする力が高まっている」の項目に大きな向上が見られた。これは、1単位時間ごとに習得した知識や概念を、自分の言葉で1枚ポートフォリオに記入していき、その記録をもとに「単元を貫く問い」を解決し、表現しようとする活動に取り組んだ成果であると考えられる。また、表2に見られるように、「単元導入時」と「単元末」では、「単元を貫く問い」についての生徒の記述に大きな変容が見られる。1枚ポートフォリオを見れば、考えの深まりを客観的に認識することができる。このことは、生徒たち自身が「学びの実感」を持ち、「成長の実感」を得ることにつながったと考えられる。さらに、表3の「『(日本人は)一つ一つの事や人を大切にする』ということ学んだ。」「これから社会人になっていく中で、たくさんの人や事に会おうと思います。これからは今まで以上にたくさんの人や事を大切にしていきたいと思いました。」等の記述からは、学習を通して生徒たちが日本人としての誇りを持ち、社会に参画する意識を高めたことがうかがえる。

4 研究のまとめ（成果と課題）

(1) 成果

これまで述べてきた表1の変容等から、研究の視点に基づく取組は、「生徒一人一人が未来の創り手となる豊かな学び」につながったと考える。

研究の視点1の『見方・考え方』に着目した問いの工夫」として「自分の在り方や生き方についての自覚を深めることへ向かうような『単元を貫く問い』を設定する」ことや、その問いについて「多様な視点から捉えさせ、考えさせる」ことは、次期学習指導要領における科目「倫理」の目標に示されている「現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動」を通して、「倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う」ことや、「多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める」ことにもつながると考える。

研究の視点2の「学びを実感する振り返りの工夫」として取り組んだ「1単位時間ごとに習得した知識や概念を、自分の言葉で1枚ポートフォリオに記入し、その記録をもとに『単元を貫く問い』を解決する活動」は、次期学習指導要領における科目「倫理」の目標に示されている「諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける」ことにも資すると考える。

本実践の研究の視点に基づく取組は、検証単元以外でも、実施することが可能である。したがって、本実践で得られた成果は、次期学習指導要領の科目「倫理」で求められる、探究的な授業づくりに活用することができると考える。

(2) 課題

本実践では、これまで述べてきたように、生徒たちの「学びの実感」や「学んだことを生活に生かそうとする態度」の育成について、一定の成果を得ることができた。しかし、「未来の創り手」に関する資質・能力の伸長と、視点1・2による取組の相関を、更に丁寧に見取るには、より長い期間での実践が必要である。一方で、1単位時間ごとの「問いの工夫」や、意見交流によって考察を深めるための「手だての工夫」についても、更に充実させていく必要がある。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領解説 公民編」
- ・文部科学省(2016)中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」